

第 11 回むつ市市民協働まちづくり会議 会議録

1 日 時 平成 27 年 4 月 21 日（火） 18 時 00 分～20 時 30 分

2 場 所 むつ市役所本庁舎大会議室 A

3 出席者 【委員 12 名】

伊藤和子委員	菊池三十義委員	国田とき子委員
久保里砂子委員	工藤 薫委員	桜田真佐委員
竹内博之委員	傳法久昭委員	中川 渉委員
原田敏匡委員	馬場久美子委員	米田さとみ委員

【市職員 4 名】

商工観光課 鎌田隆夫	生活福祉課 成田一郎
教育委員会総務課 二本柳 愛	公営企業局施設課 蛭名貴大

【アドバイザー】

studio-L 醍醐孝典

【事務局 6 名】

総務政策部長 花山俊春
総務政策部政策推進監 川西伸二
市民連携課課長 立花一雄
市民連携課主任主査 山崎 学
市民連携課主査 川部小枝華
市民連携課主事 山田侑季

4 欠席者 【委員 4 名、市職員 1 名】

立石 圭委員	福田貴宏委員	松岡敦子委員	向井正大委員
大畑庁舎管理課	成田寿美歌		

5 会議録確認者 原田敏匡委員 桜田真佐委員

会 議 概 要

1 会長あいさつ

(会長)

今回からチェックインを始めることとした。始めた理由は、ビジネスにおいても何においても、スピーチは大事な能力の一つ。場数を踏まないとなかなか上達しない。今回からチェックインをとおして慣れてもらいたい。これを続けていくと、目に見えて変わっていく。それも楽しみながらみんなでチェックインをしたい。また、聞き手側もうなづくことにより、話している側は話を聞いてもらっていると捉えるので、気持ち良く話すことができる。

3月の発表会では、来場した第1次市民協働まちづくり会議の委員から「非常に楽しそうだ。うらやましい。」という感想を聞いた。私たちにとって一番の褒め言葉だと思う。本当に一年間良かったと思う。

2年目に突入し、「高齢者・福祉チーム」のプロジェクト（高齢者の居場所づくり）は今日からスタートし、5月3日は「にっぽん丸」の歓迎イベント。「希望のまちづくり補助金チーム」が大分てこ入れした、希望のまちづくり補助金の審査会も行われる。今年は実践の年となる。ただし、1回、2回、3回やっても、まちづくりに関して成果はでない。成果だけを求めるとプレッシャーにもなり、楽しくもなく、続かない。第2次市民協働まちづくり会議で成果が出なくても、次の第3次で出るかもしれない。続けることに意味があるので、楽しく笑顔でこの1年、イベントや事業を行っていきたいと思う。

2 これまでの活動の振り返り

●部会

(市民政策提案審査部会)

市民政策提案についてまず良かったことは、応募件数が増えたこと。平成25年度は2件に対して、昨年度は11件。市民の皆さんに周知されたと思う。若い方からも提案があったことは、周知方法が良くなったことだと思う。また、採択という形ではないが、市ではなく市連合 PTA がランドセルカバーのイラストをムチュランファミリーにして、今年の小学校新一年生に配布したことも良かったと思う。

難しかったことは、箱ものを作ってくれというような提案。市役所で対応することは難しいと思う。ただ、若い方からの提案であり、回答としては不採択であるが、せっかく夢のある提案を断らなくてはいけないということは心苦しかった。

紙で提案してもらい、紙で回答するという形は、すごく冷たい感じがする。そこで、提案者にはまず面接を実施して、直接会って話をするなどワンクッション置くという意見も出た。また、募集要項を魅力的なものにしたら良いのではという意見や、公開型でプレゼンをする。審査基準も、採択、不採択だけではなく、「今は採択できないが、市の担当部署が引き続き検討していく」ということもあってはどうかという意見が出た。

話はそれるが、やりたいアイデアがあるので発表する。まずは釜臥山で夕日を見ながら食事やゲームをして楽しみ、続いて恐山で肝試しを行い、その後市内で懇親会。これをツアーにできればと思う。

(希望のまちづくり補助金審査部会)

目の前に具体的に变えたいものがあり、一つ一つ決めごとをしていきたいが、時間がないので、意見が出たところまでをまとめた。去年審査した時に、一番審査しにくかったことは、8項目で10点満点と2項目で20点満点と分かれていたことが点数を付けづらかった。10点満点が良いのか、または5点満点はどうかという意見が出た。項目一つ一つ見ていくと、いくつか項目を分けたいという意見も出た。3月14日にプレゼンをしたが、この補助金は将来魅力的なむつ市を目指し市民活動が発展していく。それを支える補助金であるということをはっきりさせたと思う。将来このまちが良くなるのかという基準をきちんと入れたい。去年まではイベントが多く、そのイベントを行うことで将来むつ市が良くなるのかということがあった。今回活動が広がっていくためには、PRしていくことが大事ということを募集要項にも入れ、申請書にどのようにPRしていくかという項目も入れた。もう一つは、今回「健康・食育」を重点テーマに設定した。そのテーマに沿った事業について審査の時の配点を良くしたい。現在点数については最低ラインというものがなく、一昨年までは上の順位から予算内のものを全部採択していた。去年については予算額の中でそれ以内のものは採択したものの、下から二つの団体の点数が良くなかった。そこでもう少し内容を見直して欲しいという条件を付けて採択した。予算に残りがあれば2次募集するという形にしたい。

【発表後、今年度の審査部会員について話し合い、数名別の部会へ異動した】

●チーム

(Facebook チーム)

良かったことは、まちづくり会議のページに対する「いいね！」の数が当初の目標を上回り900を超えた。課題としては、投稿頻度が人によってムラがある。そこで、一人月に3回、日にちを決めて投稿する。シェアの仕方や友だちに紹介するなど、操作方法の面でわからない部分があるが、まずは進めながら取り組んでいく。

(ニュースレターチーム)

昨年度は2回しか発行できなかったことが反省点。メンバーが忙しく、作業分担が上手くいかなかった。良い点としては、色々な話し合いができた。今年度の目標として、3回は発行したい。なるべくは無理をしない形で、A3の表裏でなくA4の表裏を考えている。7月、11月、3月発行の広報むつの折り込みを目指す。ニュースレターチームのメンバーは、高齢者福祉グループとほぼ重なっている。そのため、高齢者福祉グループの活動日にも話し合いをして発行に向けて取り組んでいく。

3 プラットホームの試験運用に向けて

(会長)

5月の会議には、図書館に各団体から置いてもらうファイルのサンプルを作ってくる。それを確認してもらい、皆さんが自分の団体や知っている団体の情報を収集して欲しい。そして6月上旬には、キャビネットを設置し順次ファイルを入れていく。

4 5月3日のにっぽん丸歓迎イベントについて

(会長)

現在 Facebook、市ホームページ、広報むつで参加の呼びかけはしているが、実際何人参加するか不明である。皆さんからも周りに声がけをして欲しい。

5 今年度の会議の進め方について

(アドバイザー)

プラットホームについては、とりあえずやってみるというスタンスはすごく良いと思う。これからやっていくなかで課題や気付きが出てくる。このような取組はやってみないとわからないので、やりながら改善し、色々な事例を調べれば良いと思う。まずはやってみようというスタンスは、むつのスタイルの一つなのではないか。実はすごく良いと思っている。やっていく中で色々な悩みが出てくると思うが、会議の中で共有しながらみんなで解決し、レベルアップしていくという流れができれば良い。

にっぽん丸歓迎イベントも旗がかわいい。ウエルカムやおもてなしも、むつなりのおもてなしを考える良いきっかけにしてみても良いと思う。にっぽん丸に乗っている所を周り、むつで降り立った人たちに対して、どんなことをすれば印象に残るか。5月3日試しにやってみて、次はこうしようという流れになれば良い。

まちづくり会議は2年目に入る。私の提案として、外に出てみることに。1年間この会議の中で色々議論をしてきて、むつ市民向けに発表した。そして色々な反応があった。これはすごく大きな成果だったと思う。少し他の地域で活動している人たちの取組や悩みを聞いて交流することを2年目は仕掛けていきたい。色々な地域がむつとつながることで、新しいことが生まれてきたりする。例えば、私がここ5年くらい関わっている東京都墨田区は食育に熱心に取り組んでいる。墨田区は農地もなければ漁港もない。生産地が全くない。そこで食育の取組をがんばっている。その理由は、震災を踏まえ、いざという時にこのまちで食べ物があるのかということがきっかけになっている。食育を一つのテーマにしているが、食だけがテーマではなく、人づくり・まちづくりを考えて取り組んでいる。内閣府が毎年食育の全国大会を開催している。今までは都道府県レベルか、政令指定都市レベルだったが、自治体としてはじめて墨田区が6月に全国大会を行うことになった。色々なプログラムがあり、小学校や企業などの取組の発表があるので、見てみると良いと思う。

むつの高校生向けのワークショップを行う。将来ふるさとを元気にする仕事につくため、ふるさとに帰ってくる意識付けをしたい。高校卒業後、東京に吸い取られることが今の日本の課題になっている。ふるさとに戻って働くことは選択肢のひとつであり、これから求められること。カッコいいことだということを知ってほしい。

「今宵サミット」にもぜひ乗り込んでほしい。今年は新潟燕市。ここで、色々な悩み相談や、アドバイスしあったりしてつながりができている。まちづくり会議のメンバーも出かけて行けたら、ほかの地域の取組や、燕市の取組も参考になると思う。

まちづくり会議自体は、月1回のペースで進めていくことになると思うが、プラスアルファとして、これまでの流れの中で実践を進めていくこと。今日議論した二つのテーマの取組をステップアップさせていくこと。外に出てつながりをつくることをやっていけたらと思う。

6 その他

●アクションプロジェクトチームから (高齢者・福祉チーム)

今日から活動が始まった。PR はまだしていないので、次回の開催日までにはポスター等作りたい。今日は 1 回目だったが予想以上に来てくれた。皆さんの意見を聞きながら、正月に向けたしめ縄作りや介護予防の運動なども取り入れていきたいと思っている。皆さんも現状を見に来たり、近くのお年寄りに声かけをしてほしい。継続して取り組んでいきたい。

(若者・連携チーム)

青森杉のログハウスを宣伝してほしい。今年の目標はバックアップしてくれる市町村や団体を探すこと。また、やりたいという市町村があれば、直接行って技術やノウハウを教える。

将来は震災地に建てたい。できれば今年か来年には岩手、宮城、福島にモデルハウスを建てたい。そのために、やる気のある営業の人を探している。

7 閉会